

2016年3月期第2四半期 決算説明会資料

～中計「New Challenge2016」の2年目の進捗について～

2015年12月2日

稲畑産業株式会社

代表取締役社長

稲畑 勝太郎

稲畑産業とは、



稲畑染料店(京都・西陣)

1. 創業1890年

1890年 京都において、稲畑染料店として発足
その後、ケミカル分野を中心に事業を拡大

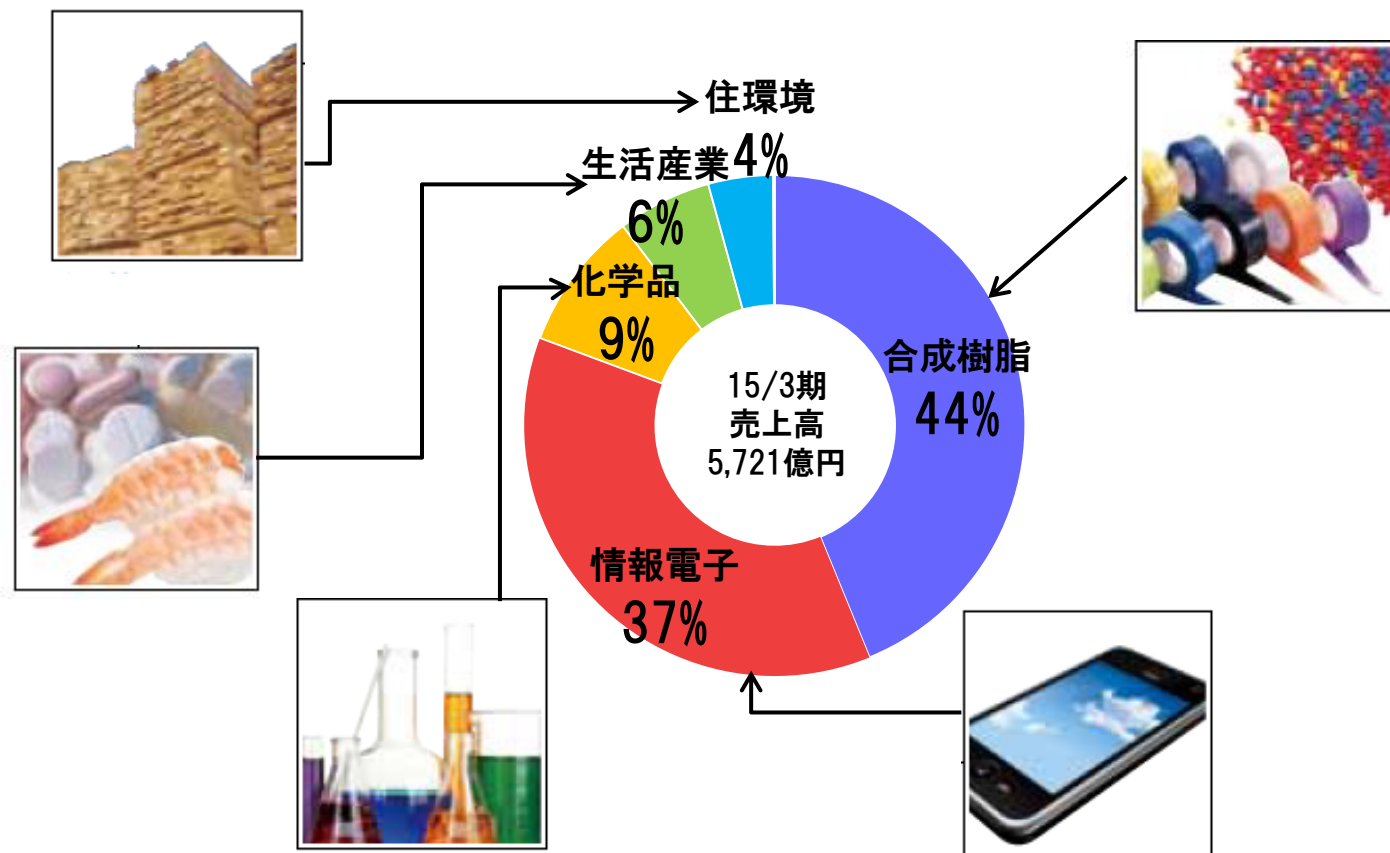
2. グローバルに複合展開する商社

世界18カ国に約60拠点を展開
市場開発、製造加工、物流、ファイナンス等の機能
商品やマーケットの専門知識・ノウハウに基づく企画・提案



3. 5つの事業分野

情報電子、化学品、生活産業、合成樹脂、住環境の5つの分野で事業を展開



• 液晶パネルのマーケット

大型、中・小型とも供給過剰気味のため、価格の下落傾向が続く

【大型パネル】(TV, ノートPCなど)

- パネルの大型化(32インチから55インチへ)
- 大型化により、面積ベースでの成長が続く(年4~5%)
- 中国パネルメーカーの市場シェア拡大
 - 低価格化の継続により、パネルメーカーの淘汰が進む

【中・小型パネル】(スマートフォン、ゲーム機など)

- 依然、スマートフォンが市場を牽引するも中国市場が飽和状態に
 - 成長率の鈍化

• 合成樹脂のマーケット

樹脂原料価格の下落傾向は期末まで続く見通し

【汎用樹脂】(住宅、食品容器、日用品関連など)

- 在庫調整が終わり、第3四半期から数量回復へ
- 住宅関連は弱いが、インバウンドも効果あり食品容器、日用品関連が堅調

【高機能樹脂】(自動車、OA関連など)

- 価格の下落幅は汎用樹脂に比べ小さい
- 自動車関連は、国内の生産台数減少により弱含み
- OA関連は堅調、生産拠点の中国 → ASEANシフト続く

中期経営計画目標(2017年3月期)

売上高	: 6,200億円
営業利益	: 125億円
経常利益	: 135億円
純利益	: 100億円
ROE	: 8.2%
ネットD/Eレシオ	: 0.45倍以下(※)
自己資本比率	: 38.0%
想定為替レート	: 1USD=100円

(※) ネットD/Eレシオ = (有利子負債 - 現預金) / 自己資本

2016年3月期第2四半期実績

円安の影響などにより、売上高2,927億円 営業利益59億円
 利益面では、中計2年目の目標値の50%を上回る

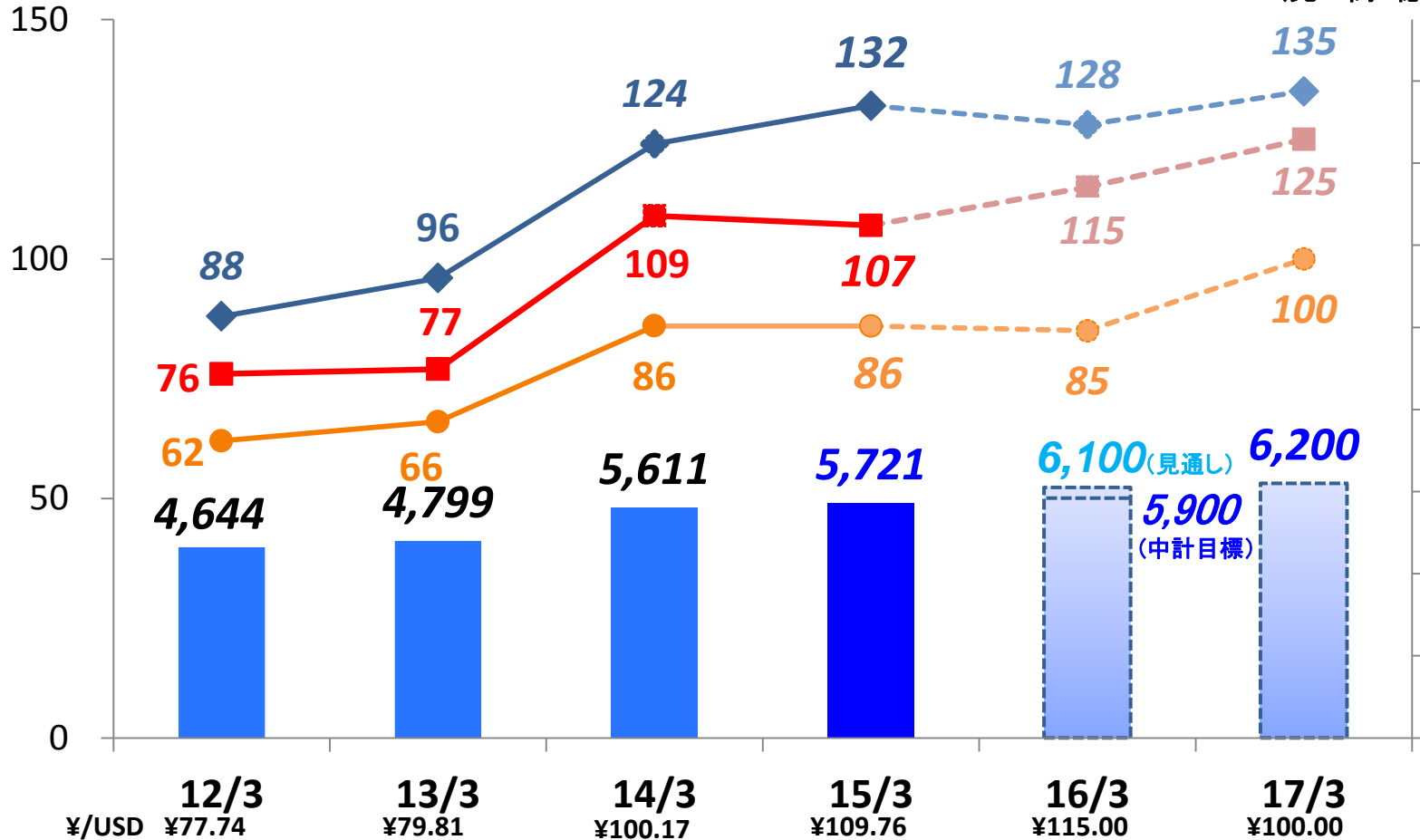
(億円)	2016年3月期第2四半期				
	16/3期2Q 実績 (A)	通期見通し (B)	進捗率 (A/B)%	中期計画 2年目 目標(C)	進捗率 (A/C)%
売上高	2,927	6,100	48.0%	5,900	49.6%
営業利益	59	115	51.6%	115	51.6%
経常利益	67	128	52.6%	128	52.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	47	85	56.3%	85	56.3%
ネットD/Eレシオ	0.46	—	—	0.48	—
自己資本比率	39.9%	—	—	36.5%	—
為替レート(米ドル)	121.87円	115.00円	—	100.00円	—

(注)通期見通しは2015年5月8日公表の修正値。

「New Challenge2016」 定量目標



(利益 億円)



- 売上高
- 営業利益
- ◆ 経常利益
- 純利益



(注)中計目標は、2014年5月に策定。16/3期売上中計目標 5,900億円→2015年5月8日公表見通し 6,100億円
14/3期の純利益86億円は、関係会社売却益11億円を含む。

1. 海外事業の更なる拡大と深化

- 中核であるアジア事業の更なる拡大と深化
- アジア以外の新興国への取り組みの拡大
- 非日系企業との取引の拡大

2. 成長が見込める市場・未開拓分野への注力

- 自動車分野、環境・エネルギー分野、ライフサイエンス分野への注力
- 新規取引先・新規商材を拡大し、収益の多様化を着実に進める

3. グローバル経営のインフラ整備・拡充

- グローバル経営を支えるリスク管理・経営管理手法の整備
- 情報システム、業務プロセスのグローバルな標準化の推進

4. 将来の成長に向けた投資の実施

- 今後3年間の投資枠を100億円に設定

5. 資金効率・資産効率の更なる追求と財務体質の強化

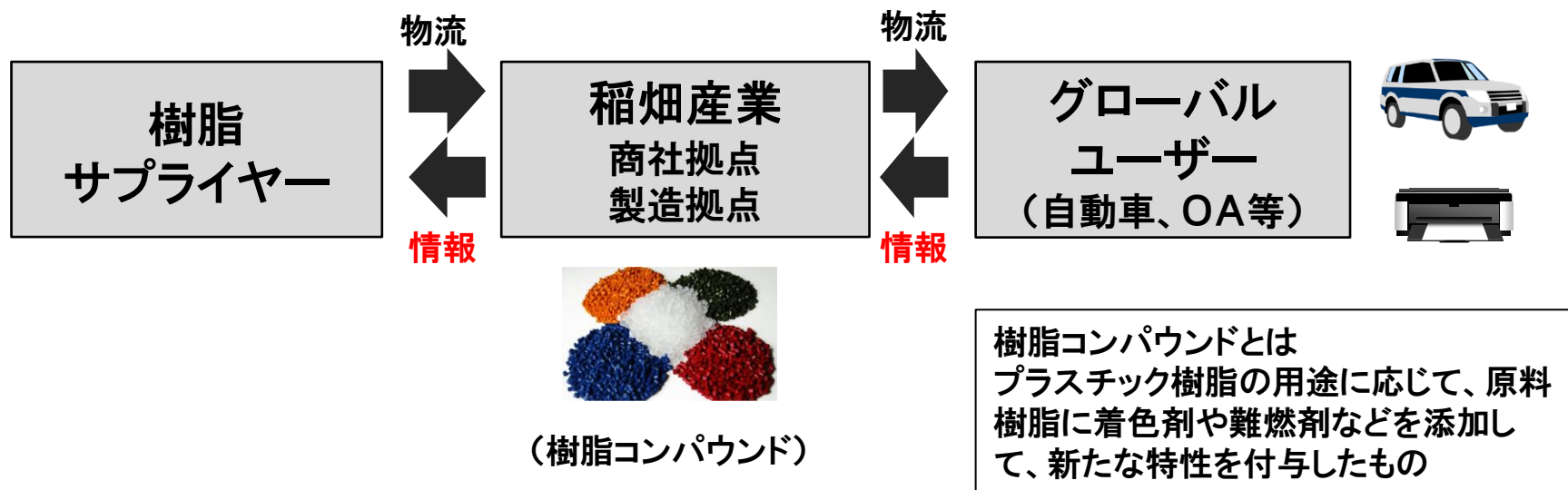
6. グローバル人材の継続的な育成

1. 海外事業の更なる拡大と深化①

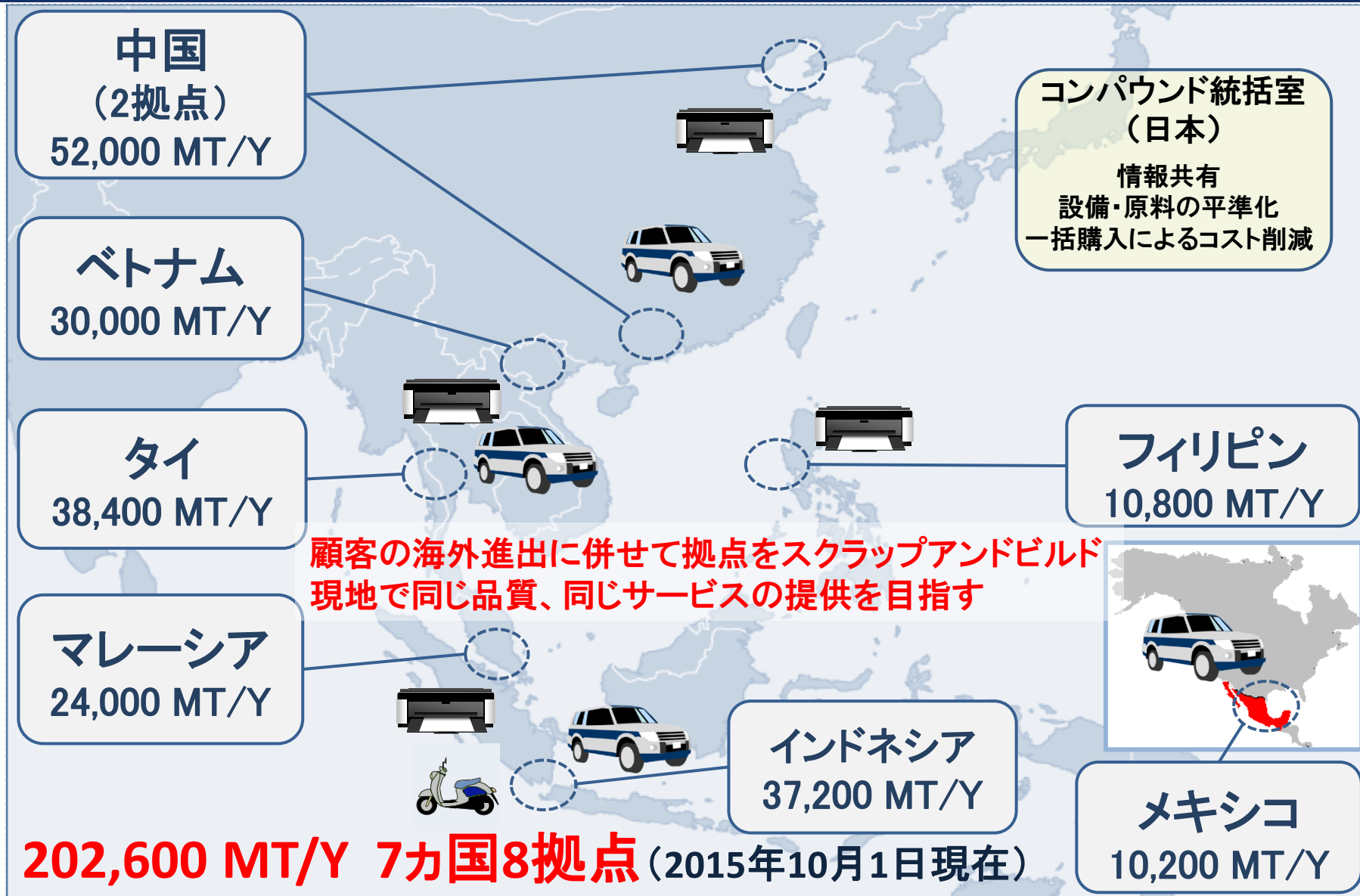
合成樹脂事業の強化

樹脂コンパウンド製造事業を強みとして、合成樹脂関連の販売を更に強化

顧客のグローバル化、現地調達化の動きに対応し、
ワールドワイドに樹脂コンパウンドを供給できる体制の構築を目指す
樹脂コンパウンド事業により他商社との差別化を図り、樹脂の商社ビジネスを拡大



樹脂コンパウンドの年間生産能力(ワールドワイド)



- 中核であるアジア事業の更なる拡大と深化

フィリピンの樹脂コンパウンド製造拠点(OA向け)



2014年7月より商業生産を開始

2015年モデルのプリンターに採用され量産化スタート

生産実績 2015年3月 100トン超/月 → 7月 600トン/月

2015年4～9月 販売実績 1,580トン

- 顧客の生産計画が遅れ気味である影響あり
- 排水処理や倉庫設置も完了、人員など社内体制も整い、今後の販売拡大を目指す



会社名 : IK PLASTIC COMPOUND PHILS. INC.
生産能力 : 10,800トン/年
所在地 : フィリピン ラグナ州

～商社拠点と連携して樹脂ビジネスの拡大を目指す～

・ アジア以外の新興国への取り組みの拡大

メキシコの日系初のエンプラ・コンパウンド製造拠点(自動車向け)

2013年11月に稼働開始、2014年9月より量産を開始



生産実績 2015年3月 100トン/月 → 9月 200トン超/月
下期中に400トン/月へ

- ・ 自動車向けのため、試作から量産まで時間が必要
- ・ 量産立ち上げのタイミングは遅延しているものの、案件自体の受注は確定しているものが多く、今後、着実に業績の拡大を見込む



会社名 : IK Plastic Compound Mexico, S.A. de C.V.
生産能力 : 10,200トン/年
所在地 : メキシコ中央部グアナフアト州シラオ

～商社拠点と連携して樹脂ビジネスの拡大を目指す～

・ 中核であるアジア事業の更なる拡大と深化

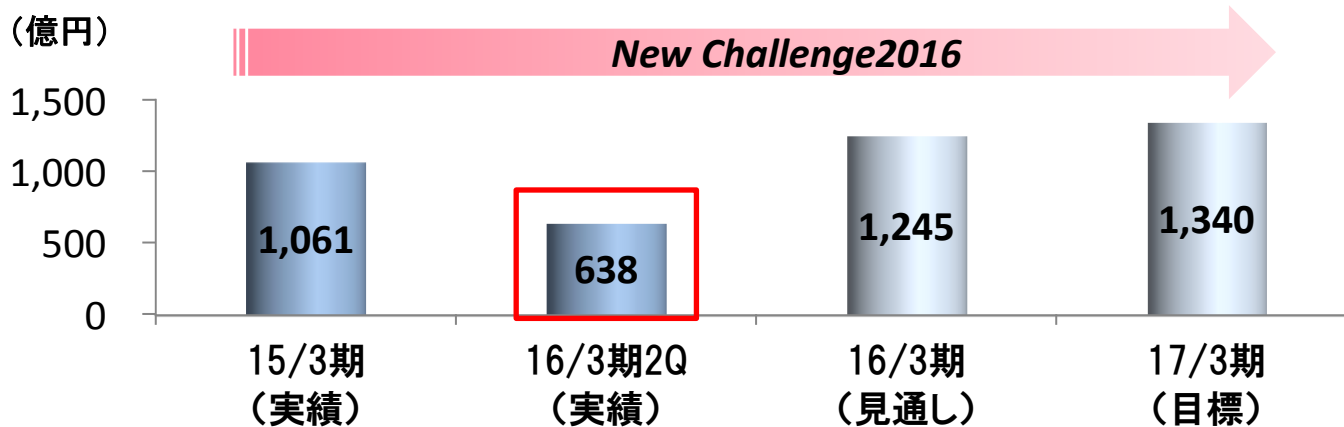
中国に対する取り組み

16/3期第2四半期 売上高 638億円

- ✓ 景気減速はあるものの、重要な市場である位置づけは変わらず
- ✓ 情報電子事業では、非日系パネルメーカー向け偏光板の販売が回復
- ✓ 合成樹脂事業では、自動車向けが日系、欧米系共に堅調
- ✓ 生活産業事業では、医薬中間体原料が伸長

➡ **リスク管理を徹底して引き続き販売に注力**

◆ 中国での売上高実績と中計目標（単純合算ベース）



(注)16/3期は直近の見通し。17/3期の目標は、2014年5月に策定した計画値。

・ 中核であるアジア事業の更なる拡大と深化

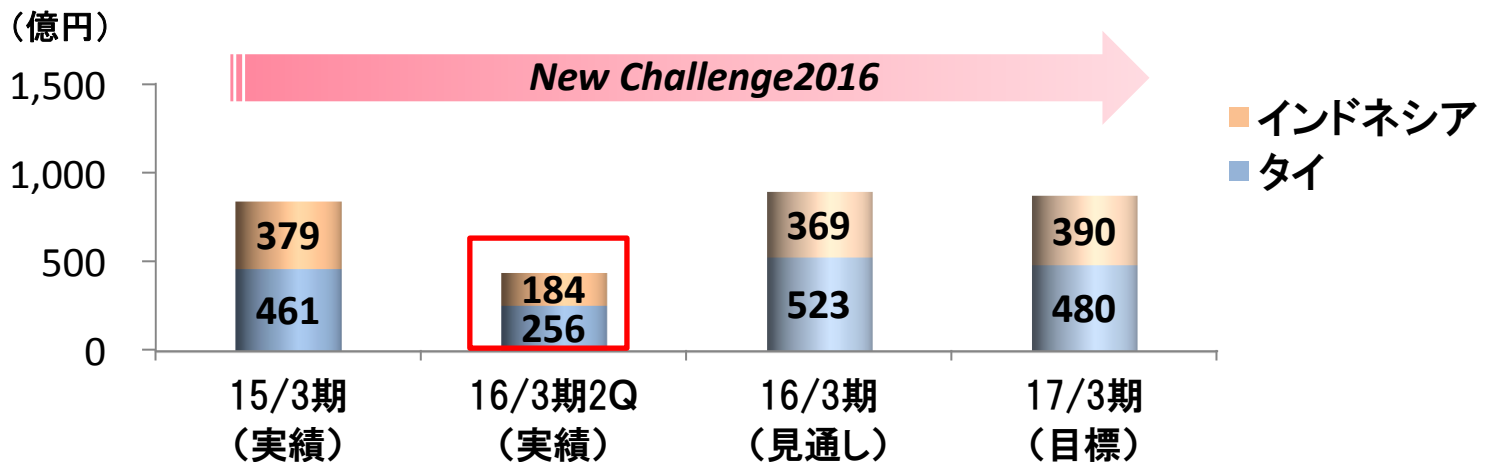
タイ・インドネシアに対する取り組み

16/3期第2四半期 売上高 タイ256億円 インドネシア184億円

- ✓ 両国とも国内景気は一時的に減速しているが、長期的には成長軌道に戻る
- ✓ タイでは、電気電子分野で携帯電話向けの樹脂原料の販売が順調
- ✓ インドネシアでは、車両、家電向け樹脂の販売が低調なものの、OA機器や飲料ボトル用樹脂の販売は微増

➡ **引き続き車両分野を軸に拡販を進める**

◆タイ・インドネシアでの売上高実績と中計目標（単純合算ベース）



(注)16/3期は直近の見通し。17/3期の目標は、2014年5月に策定した計画値。

(注)車両は、4輪および2輪

・ 中核であるアジア事業の更なる拡大と深化

ベトナムに対する取り組み

ベトナムのポリエチレン(PE)製の袋・フィルムの製造拠点を設立

- ✓ タイのApple Film Co.,Ltd.の第二工場
- ✓ 顧客の「脱中国サプライヤー」の動きに対応
- ✓ タイでは高付加価値品、ベトナムでは労働集約型の汎用品を生産

2014年9月より営業生産開始、10月より輸出スタート

2015年9月に規格袋の設備増設(50トン/月)

製造・販売共に順調に拡大

2015年4～9月 製造・販売実績 約900トン
通期 製造・販売見通し 2,700トン



会社名 : Apple Film Da Nang Co., Ltd.
設立 : 2013年9月
事業内容 : ポリエチレン製袋(ゴミ袋、規格袋)の製造、販売
生産能力 : 3,600トン/年
所在地 : ベトナム ダナン市

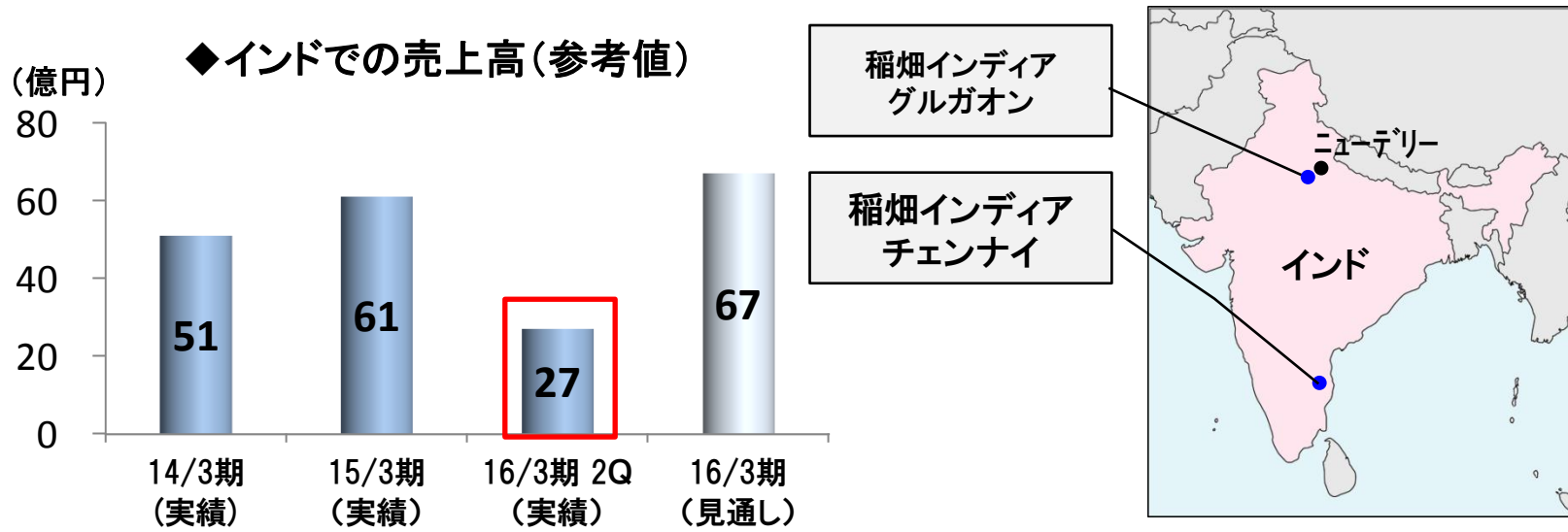
・ 中核であるアジア事業の更なる拡大と深化

インドに対する取り組み

16/3期 第2四半期 売上高 27億円（参考値）

- ✓ 合成樹脂の販売は、車両、家電分野向けの商売が着実に増加

➡ **日系顧客とのビジネスを核に取引拡大を目指す**



(注) 売上高は、在庫販売の売上高にコミッションベースの取引のみなし売上高(マージン率より算出)を合計した参考値です。 18

・ アジア以外の新興国への取り組みの拡大

2015年9月 中東ドバイに事務所を開設

有望市場である中東地域においてビジネスを開拓



2016年度に地域売上高20億円を目指す

【注力商品】

インフラ向け環境・エネルギー関連部材(太陽光発電など)、
ケミカル、食品、工業用フィルターなど

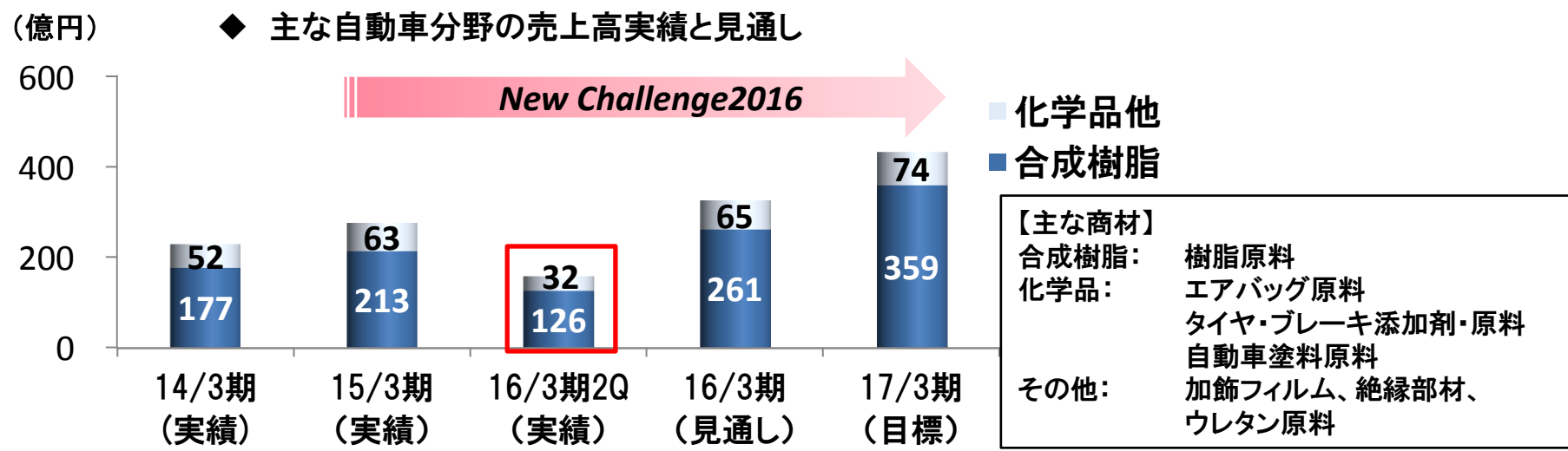
Inabata Europe GmbH Middle East (Branch)

自動車分野への取り組み

16/3期第2四半期 売上高 合成樹脂 126億円 化学品他 32億円

- ✓ 合成樹脂は、グローバル重点ユーザー(31社)を中心に取引拡大
 - ・海外発信ユーザーの国内取引への展開
 - ・海外樹脂メーカーとの取引における既存商社からの商流変更
- ✓ 足元の日系向けは合成樹脂・化学品共、東南アジアで低調

→ **合成樹脂は、本格量産が始まるメキシコに注力**



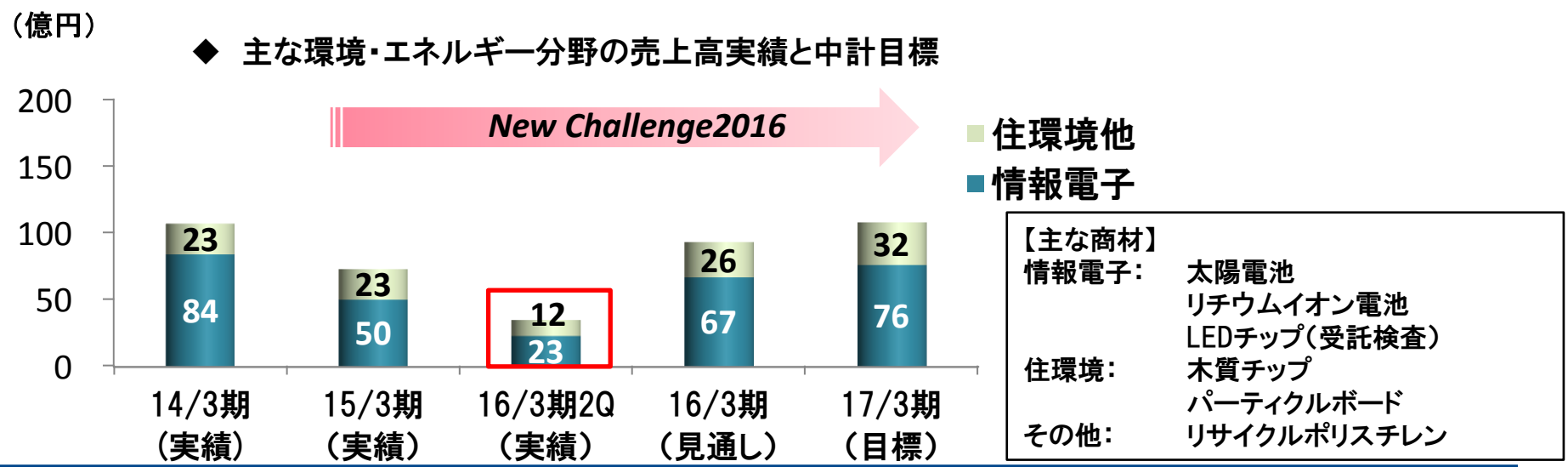
(注) 16/3期は直近の見通しの数値を記載しています。

環境・エネルギー分野への取り組み

16/3期第2四半期 売上高 情報電子23億円 住環境他12億円

- ✓ 太陽電池は、メガソーラー向け、カーポート向けソーラーモジュール等が好調
- ✓ リチウムイオン電池は、材料販売の他、電池材料製造装置の販売も進める
- ✓ 廃材利用のパーティクルボードの販売は堅調

→ **太陽電池は、市場の拡大が続く海外向けに部材を拡販**



(注) 16/3期は直近の見通しの数値を記載しています。

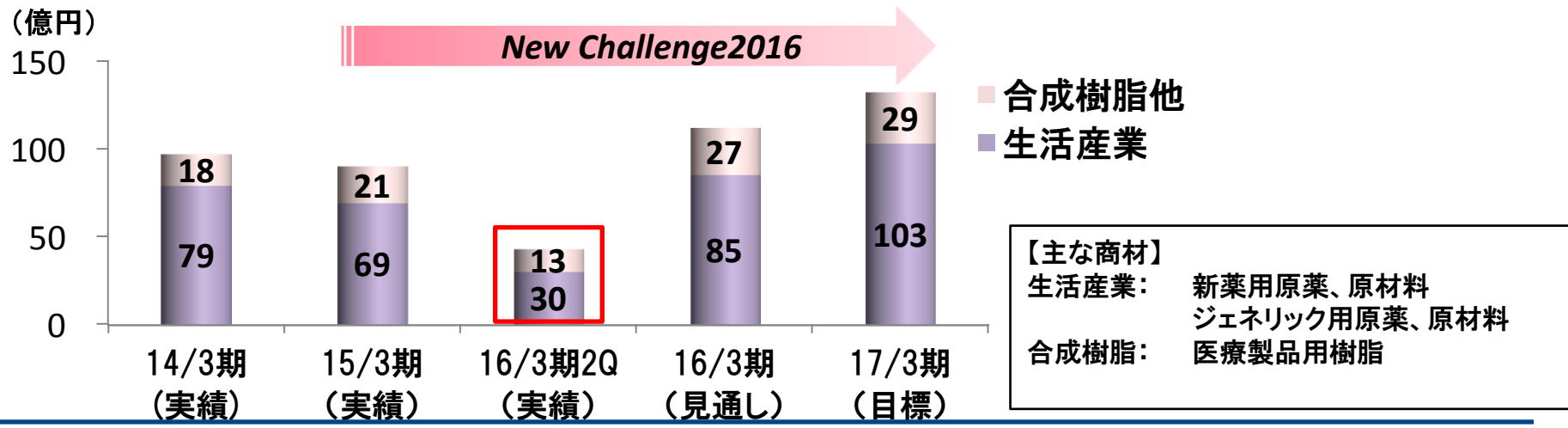
ライフサイエンス分野への取り組み

16/3期第2四半期 売上高 生活産業30億円 合成樹脂他13億円

- ✓ 国内の新薬・ジェネリック用原料は順調、特に開発用原料が好調
- ✓ 欧州ではジェネリック用原料が開発遅れにより低調
- ✓ 医療機器用の樹脂を、大手医療機器メーカーにグローバルに供給

➡ **成長分野であるジェネリック関連の拡販に注力
自社開発のサプリメントの販売を開始**

◆ 主なライフサイエンス分野の売上高実績と中計目標



(注) 16/3期は直近の見通しの数値を記載しています。

4. 将来の成長に向けた投資の実施

中計3年間の投資枠を100億円に設定

2016年3月期第2四半期の投資実施状況 27億円

【内訳】

合成樹脂11億円、情報電子9億円 他

【主な投資実績】

中国液晶関連(7.0億円)

コンパウンド事業 資本・設備投資(4.5億円)

インドネシア合成樹脂関連設備投資(2.6億円)

プラスチックフィルム事業 資本・設備投資(1.2億円)

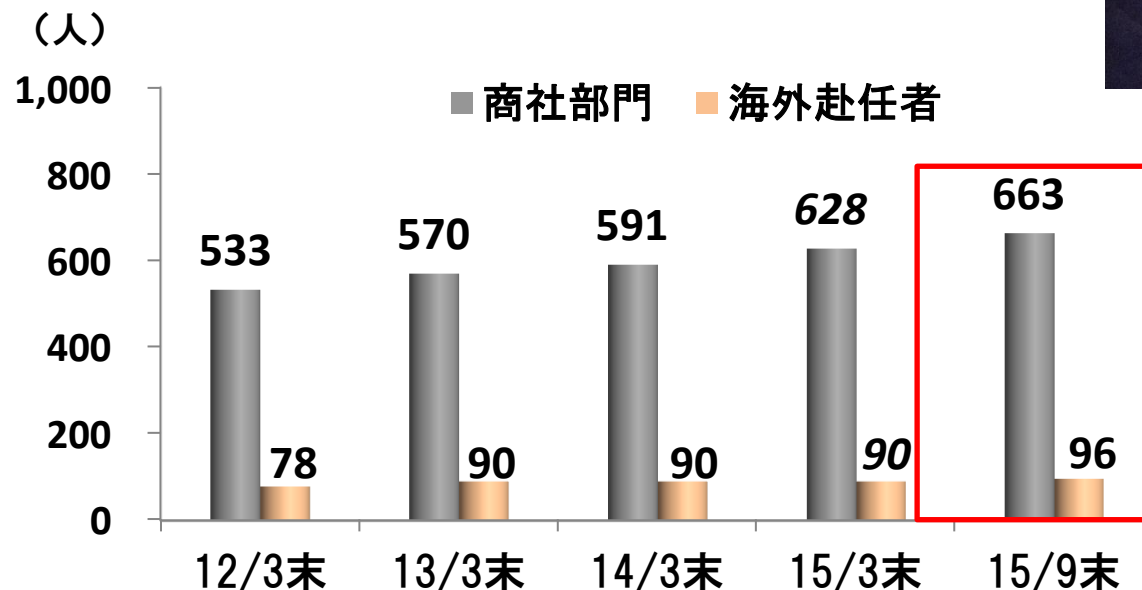
2014年4月からの投資実績累計 66億円

6. グローバル人材の継続的な育成

人員の充実と共に、質的な面での強化、育成を加速

- ✓ 日本を含めたナショナルスタッフ同士の交流促進
- ✓ Global Staff Meetingの継続的な開催
2015年5月19日、20日に東京で開催

海外の商社部門人員と海外赴任者数の推移



(注)各海外赴任者数は、翌月の1日現在の人数



【稲畑アメリカの社員と本社役員】

2015年3月期より株主への利益還元の方針を変更

配当性向 20～30%目安

→ 総還元性向 30～35%目安

基準に自己株式取得額を織り込むことで、より明確に利益還元を実施

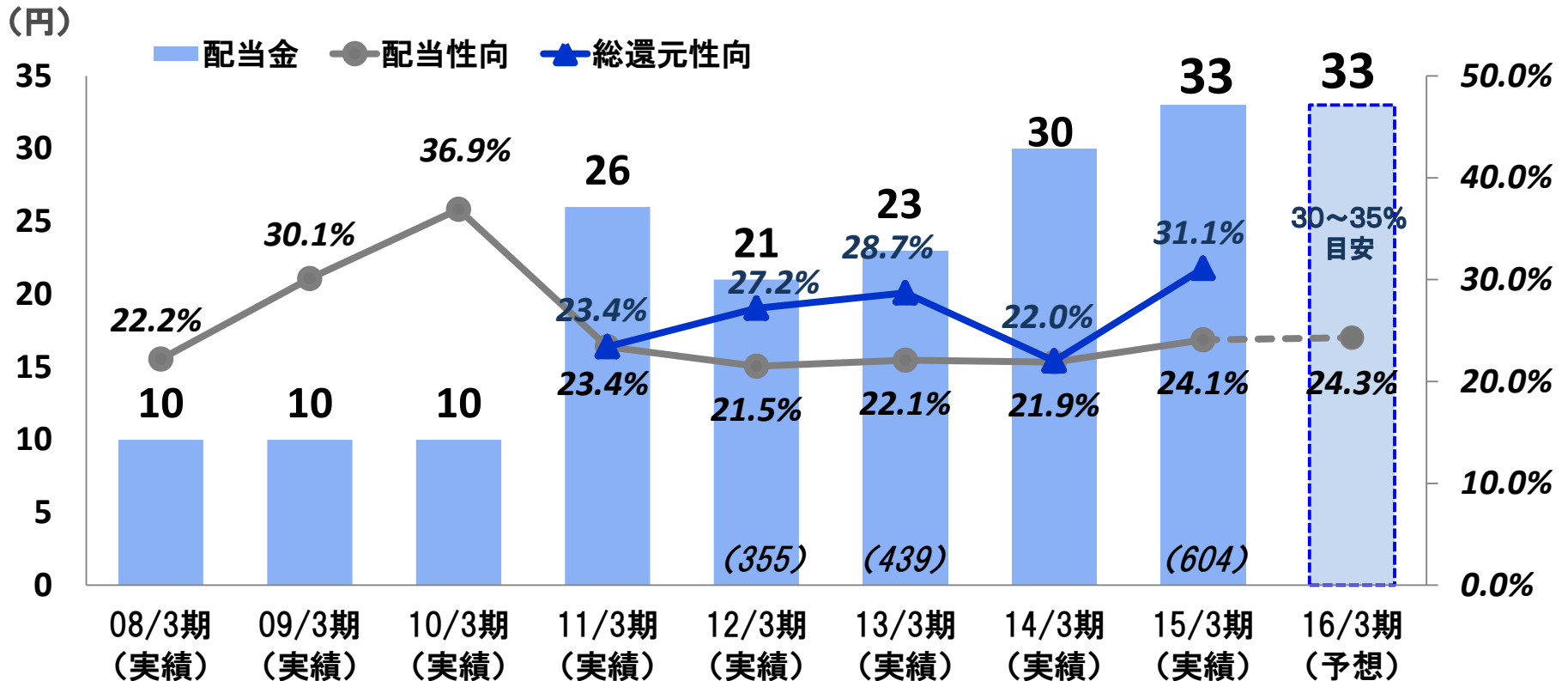
※総還元性向(%)=(配当金額+自己株式取得額)÷連結純利益x100

株主への利益還元②

1株当たりの年間配当金と株主還元指標の推移

2016年3月期

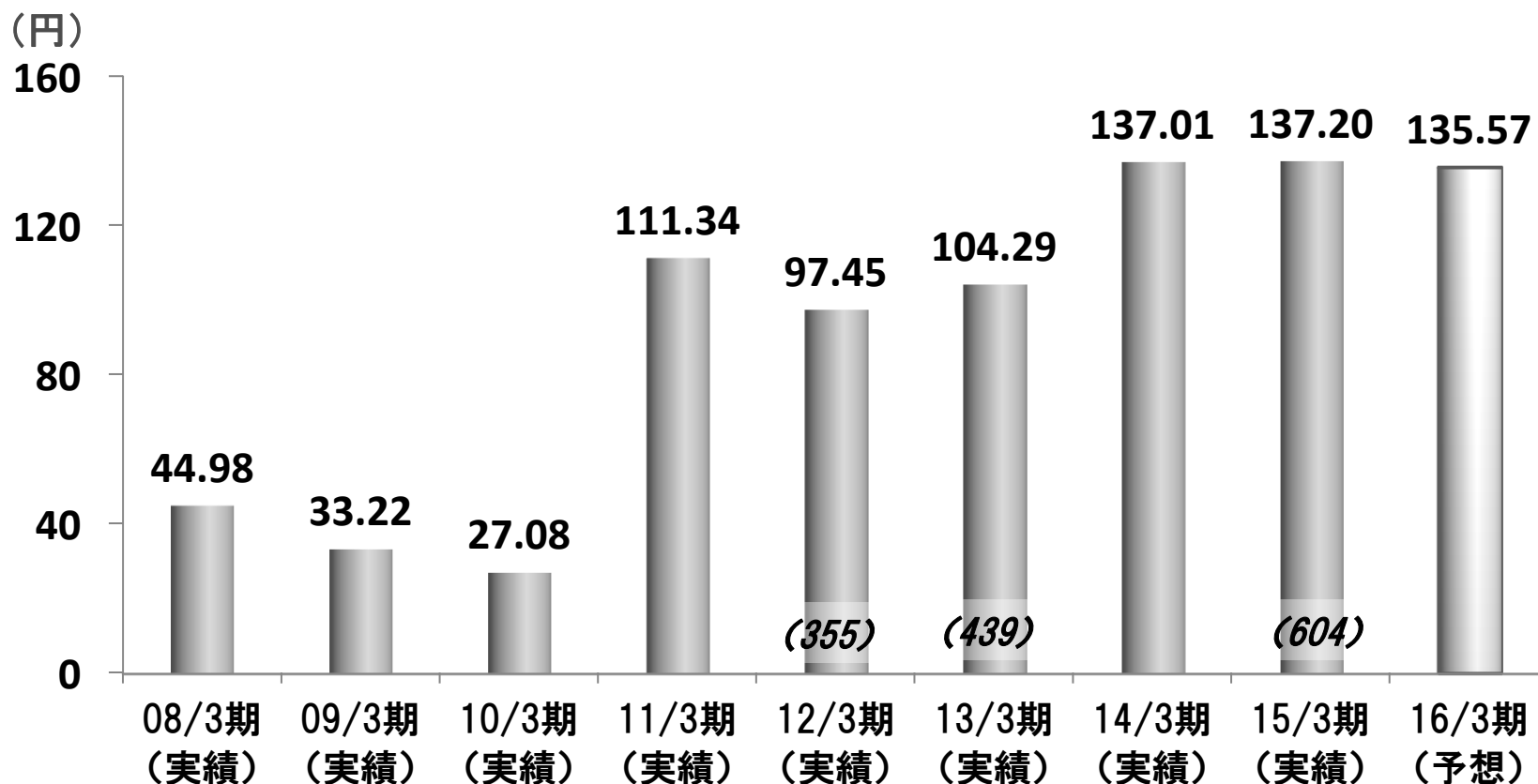
1株当たり配当金： 中間 16円 期末 17円(予想)



(注)棒グラフ下部のカッコ()内は、期中に実施した自己株式取得額(百万円)

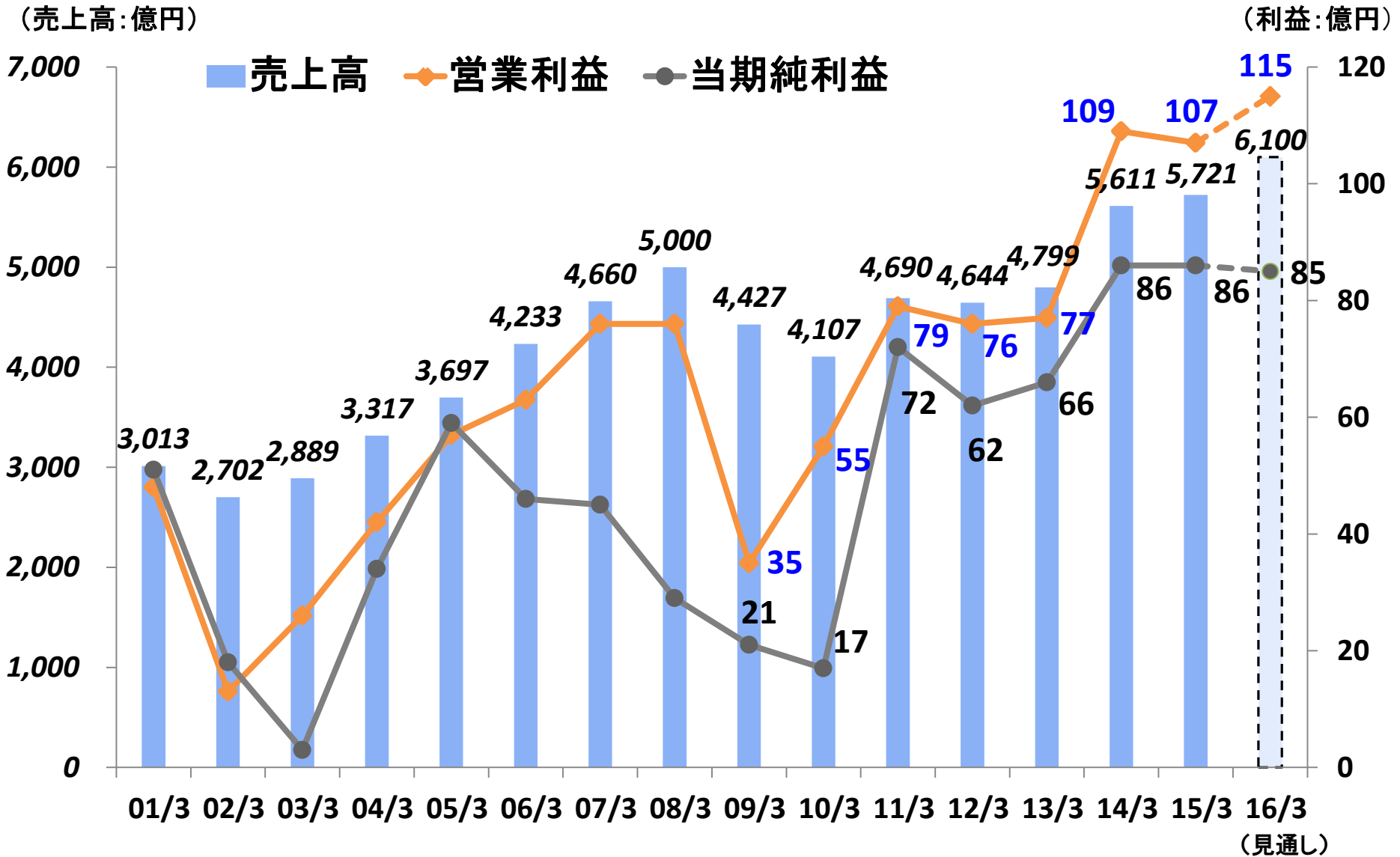
(注)11/3期は、創業120周年の記念配当2円を含みます。

1株当たりの当期純利益推移(EPS)

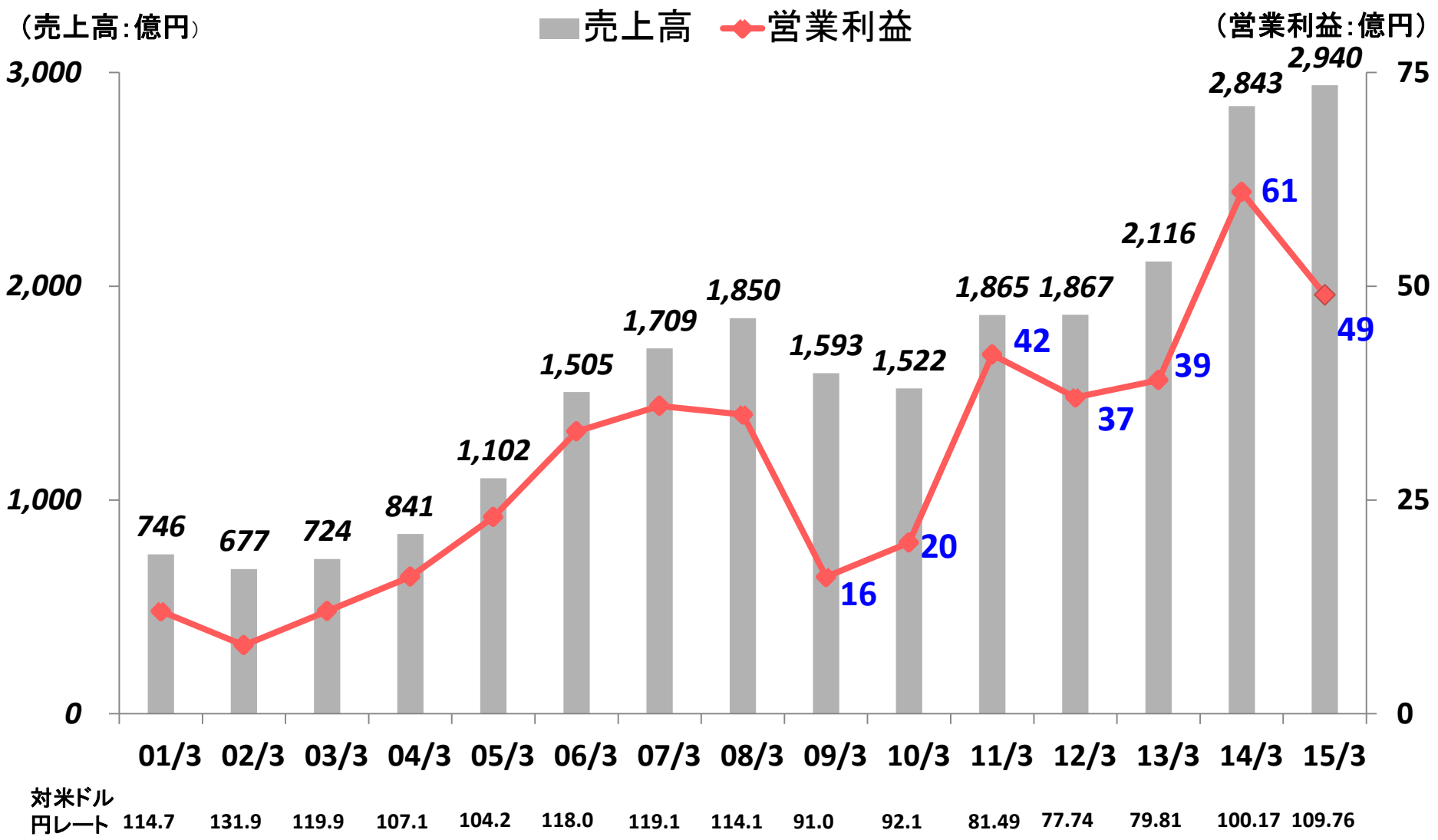


(注)棒グラフ下部のカッコ()内は、期中に実施した自己株式取得額(百万円)

【参考】 過去15年の連結業績の推移



過去15年の海外の売上高と営業利益の推移



【参考】 事業セグメントの概要

情報電子



ディスプレイ・ケミカル装置	液晶ディスプレイ(LCD)関連、LED関連業界への部材の供給および各種製造装置の取扱いを中心に、新規分野への展開も視野に高度な専門知識を活かした提案型ビジネスを展開。
映像・情報	複写機、プリンター業界のお客様にインクジェットやトナー原料、カートリッジなどの各種部材の販売、また専門知識を活かした幅広いサービスを提供。
エネルギー・エレクトロニクス材料・電子材料	半導体、LED、タッチパネル、太陽電池、二次電池、産業用フィルム業界等のお客様に、原料からプロセス材料、製造・検査装置、製品まで、高度な専門性を駆使したソリューションを提供。

合成樹脂



成型材	塩ビ樹脂、可塑剤、添加剤やポリオレフィン系、スチレン系樹脂などの汎用樹脂から各種コンパウンド、エラストマー、エンジニアリング・プラスチック、合成ゴムまで幅広い仕入ソースを背景にお客様のニーズ、シーズに合致した提案や製品展開に注力
高機能樹脂	エンブラ、スーパーエンブラ、特殊樹脂を中心に家電、OA、電子部品、自動車、建材分野のお客様に提案
産業材	ポリオレフィン原料、フィルム製品が中心で、原料メーカーとのタイアップや海外展開により充実したサービスを提供。環境対応商品、高機能商品の開発にも注力。
フィルム・機能材	コンバーター業界に対するフィルムビジネスをコアに、工業材料分野・自動車分野にも製品展開を行い、汎用・高機能オレフィンフィルム販売から食品・工業用向け最終製品までのコーディネートを提供
シート・成形材	PP,PS,PET樹脂などのシート類やその原反のみならず製品加工までと原料から製品までと一貫介在し、物流コストの効率化・コスト低減に寄与



化学品



スペシャリティケミカル	自動車部品から電子材料まで多岐にわたる業界に高機能化学品をグローバルに展開。
パフォーマンスケミカル	塗料、インキ業界向けを中心としたコーティング原材料と製紙関連薬品、接着剤原料および製品等、幅広い商品をタイムリーに提供。

住環境



住宅建材	住宅メーカー・建材メーカー向けパーティクルボード、木材、集成材、建材、プラスチック製品などの販売
環境資材	住宅設備機器メーカー向け・非住宅分野向けに原材料から半製品・製品までの販売

生活産業



ファーマケミカル	ヒューマンヘルスケアの様々なシーンにおける医薬原料の提供
環境・ファインケミカル	日用必需品の原料調達をグローバルにサポート。商品の企画から製品までトータルソリューションを提供
食品	安心・安全な水産物、農産物を世界中から提供

会社名	稲畑産業株式会社
創業	1890年10月1日
設立	1918年6月10日
資本金	93億6千4百万円
代表者	代表取締役 社長執行役員 稲畑 勝太郎
本社	大阪本社/大阪市中央区南船場 一丁目15番14号 東京本社/東京都中央区日本橋 本町二丁目8番2号
従業員数	609名〔連結3,581名〕
発行可能 株式総数	200,000,000株
発行済株 式の総数	63,499,227株

事業年度	毎年4月1日から 翌年3月31日まで
上場市場	東証一部
証券コード	8098
単元株式数	100株
株主数	4,561名
大株主の状 況(持株比率 上位3株主と 持株比率)	住友化学株式会社 22.0% 日本トラスティ・サービス信 託銀行株式会社(信託口) 6.3 % JP MORGAN CHASE BANK 385093 5.1%

(注)当社保有の自己株式数(609,850株)については、持ち株比率の計算から除外しています。

(2015年9月30日現在)

□ IRに関するお問い合わせ先

稲畑産業株式会社 財務経営管理室 IR企画部

TEL 050-3684-4007 FAX 03-3639-6410

E-mail inabata-ir@inabata.com

◆将来の見通しに関する注意事項

本資料にて開示されているデータおよび将来に関する予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。従いましてこれらのデータや将来の予測は、不確定な要素を含んだものであり、将来の業績等を保証するものではないことをご理解下さい。

◆数値の表示に関して

資料内の億円単位、百万円単位の数値は、それぞれ億円未満、百万円未満を切り捨てておりますので、個別数値と合計数値・増減額が一致しない場合があります。